

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校

学校番号

1

I 自己評価

1	学校教育目標	(1)「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を養成する。 (2)「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3)勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。
---	--------	---

2 評価する領域・分野	◇教務部
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「保護者及び生徒を対象とするアンケート」においては、教育方針や教職員関連項目での肯定的な評価が9割に上っており、良好な評価を得ている。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇主体的な学習態度や確かな学力の育成 ◇全校体制による授業改善と評価の工夫
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各分掌、学年会、教科会との緊密な連携 ・教務部内の効率的、有機的な業務展開及び業務内容の推進（業務担当制の徹底）

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 授業時間や教育課程の見直しと検討 (2) 研究授業・公開授業・研修などを通じた授業改善・教科指導力の向上 (3) 3年間を見通した学習支援資料「学習シラバス」の充実と活用 (4) 教科会の有効な運営 (5) 1年生への初期指導の工夫と充実 (6) ホームページや広報誌の効果的な活用 (7) 主権者教育の推進	(1) 各種考査（外部模試を含む）の得点分析 (2) 各教科による生徒の「授業アンケート」の分析 (3) 進路希望調査をもとにした家庭学習時間などの分析 (4) 各種行事終了後のアンケート実施と分析 (5) 「保護者及び生徒を対象とするアンケート」評価の分析

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																
<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の授業公開月間により、教員相互の授業参観、生徒による授業評価、教科会の充実により、授業改善と工夫に努めた。 ・来年度に向けて教育課程の見直し、変更を検討した。 ・1年生に対して、「学習シラバス」を有効活用するとともに、入学直後のオリエンテーションを充実させ、初期指導を徹底した。 ・生徒全体に目を向けた学習相談会、学習会を実施した。 ・学校ホームページの全面的な更新を行うと共に学校案内の更新を行い、高校見学会、中学校訪問時などに配布した。 ・18歳選挙権適用に向けて、専門家を迎えての公開授業、職員研修会、模擬投票を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員相互の積極的な授業参観や意見交換が行われたか。 ② 各分掌、学年会、教科会などと連携が取れていたか。 ③ 生徒全体に目を向けた学習支援・啓発活動等が推進できたか。 ④ 日々の業務が混乱なく円滑に行われたか。 ⑤ 外部参加者を期待した行事の実施状況などに広報の効果があつたか。 	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">C</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">D</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">C</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">D</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">C</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">D</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">C</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D															
A	B	C	D															
A	B	C	D															
A	B	C	D															

11	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○大学入学者選抜試験に耐えうる確かな学力育成に必要な教育課程の変更を実施した。 ○教員相互の授業参観、生徒による授業評価、教科会の充実により、授業改善と評価の工夫ができた。 ○主権者教育について、指導方法の研修や生徒への啓発活動を積極的に行った。 ○中学生の保護者、県外高等学校やその他教育関係者の本校への訪問、視察向けの概要を説明した資料（学校HP、学校紹介用プレゼンテーション、学校要覧、学校案内など）の更新を行った。 ○学習相談会、学習会、補習授業等の実施のシステムを構築した。 ●大学入学者選抜試験に耐えうる確かな学力育成に向けて、継続的な対策を検討していく必要がある。 ●大学入学希望者学力評価テストへ向けての本校の対応について、引き続き研究していく必要がある。 	<p>総合評価</p> <p style="font-size: 1.2em;">A B C D</p> <p style="font-size: 1.2em;">A B C D</p>
----	-------	--	---

12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制導入に向けての研究を推進していきたい。 ・大学入学者選抜試験に耐えうる確かな学力育成に向けて、教育課程や65分授業、年間行事について、総合的な見地から引き続き見直しや検討を加えていきたい。 ・生徒及び保護者による学校評価や授業評価などを分析し、生徒へのより効果的な指導が可能となるように、教科担任や学級担任とも連携を図りながら、全校体制での指導をより一層進めていきたい。 ・大学入学希望者学力評価テストへ向けての本校の対応について、引き続き研究していきたい。
----	---------------	--

II 学校関係者評価

実施年月日：平成29年2月8日

【意見・要望・評価等】

- ・昔と比べて授業の内容が難しくなっているが、一方的な講義調ではなくリベラルな指導方法で、生徒が積極的に活動している。
- ・習熟度別授業で、生徒が劣等感なく参加できていることが素晴らしい。
- ・英語のALTとのチームティーチングの授業を参観したが、以前より英会話が自然になされている。
- ・授業では、教員が非常に手厚く指導しており、うらやましく感じた。
- ・少人数、習熟度別授業等、生徒への細かな配慮がなされている。
- ・生徒同士が教えあったり、先生に質問しやすい雰囲気があって好ましく感じた。
- ・学校評価のアンケート結果から、保護者等に学校の取り組み等の情報発信について、さらに工夫を重ねて積極的に行わなければならない。

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校 学校番号 1

I 自己評価

1. 学校教育目標	(1) 「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を養成する。 (2) 「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3) 勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。	
2. 評価する領域・分野	◇「進路指導部」	
3. 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒及び保護者からは適切な情報を示し生徒の可能性を引き出している と高い評価をいただいている(A, Bの評価生徒約86%) ・高い学力を持つ生徒が多いがキャリア設計などの自らの将来に対する積極性にやや欠ける。	
4. 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇興味や関心を幅広く喚起し、生徒の能力や適性を正しく理解させ、将来の在り方や生き方を自ら洞察できるように指導する。 ◇生徒の興味や関心に応じた適切な進路情報の提供と的確な進路指導を通して、職業観や勤労観を育み、主体的に自己の進路を選択決定できる能力の育成に努める。 ◇学習ニーズに応じた効果的な課題講座を実施し、学習習慣の確立と定着を図り、大学入学者選抜に合格できる教科学力の充実と誠実な学習態度を育む。	
5. 重点目標を達成するための校内における組織体制	・1、2、3年の各学年会、各分掌、各教科との連携・協力をはかり生徒の進路実現のための協力体制を作る。	
6. 目標の達成に必要な具体的な取組	7. 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) FPTの利用 (職業・学問体験プログラム・大学とのジョイントセミナー・大学調べ・職業調べ等) (2) PTフォーラム、PSセミナー、学年集会などの学校行事、PTA主催行事 (3) 学習支援講座(課題講座) (4) 実力考査、外部模試等の分析、および資料提供、各学年会、各教科との情報共有、連携	(1) 進路意識調査の活用、個人懇談 (2) PTA個別懇談、アンケート調査 (3) 課題講座参加率や各種考査 (4) 各種外部模試の結果	
8. 取組状況・実践内容等	9. 評価視点	10. 評価
・職業・学問体験プログラム、大学とのジョイントセミナー、ジョイントセミナーat 東大、先輩に学ぶ、卒業生と語る会、PSセミナー、PTフォーラム、教養を深める読書会、等各種行事の実践 ・課題講座、実力考査、各種模試 ・資料の充実・精選・提供	① 主体的に自分の進路を考えさせることができたか。 ② 大学進学を目指す学力を身につけさせることができたか。 ③ 生徒、職員に計画的に資料を提供し、整備ができたか。	A (B) C D (A) B C D (A) B C D
11 成果・課題	○ 職業・学問体験プログラムやジョイントセミナーat 東大、卒業生と語る会などで多くの生徒は刺激を受け、各自の将来像を前向きに考えることができています。 ○ 生徒及び保護者から、「学校は、生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしている」(学校評価アンケート項目24および20)という問いに対して大変高い評価を受けることができた。(A, Bの評価保護者約89%、生徒約83%) ○ 教養を深める読書や大学講義動画の視聴などを通して、生徒が自分の興味関心を広げ将来的な進路選択に役立つ企画を立案実行することができた。	
12 来年度に向けての改善方策案		
・「職業・学問体験プログラム」、「教養を深める読書会」および「大学講義動画視聴レポート」を有機的に結び、生徒がより意欲的に自らのキャリア設計を意識し行動する系統的なシステムの構築を図る。 ・確かで力強い学力の育成のために、成績上位層においてはたくましい進路意識の育成を図り、また成績下位層へは学力的・精神的な両面からきめ細かく、手厚いサポートする。そのためにも、教務、学年会、各教科と連携・協力してサポート体制を充実する。 ・外部模試や校内実力テストをはじめとする学習教材の適切な配置を研究すると共に、その活用や反省を学年会・教科会などと共有し生徒に還元するシステム作りを行う。特に外部模試分析には力を入れ、そのデータを広く還元する。		

II 学校関係者評価

実施年月日 平成 29 年 2 月 8 日

【意見・要望・評価等】

- ・ 新たなプログラムを始める事は現状に即したことだと思いが、それについて先生方の負担が増えることが心配だ。また、新たなことを始めるならばいくつか今まで行ってきてことを辞めることになると思う。それにより今までの教育力が損なわれることの無いように配慮いただきたい。

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校

学校番号	1
------	---

I 自己評価

1	学校 教育 目標	(1)「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を養成する。 (2)「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3)勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。
---	----------------	---

2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ほとんどの生徒が、本校の高校生としてのマナーや社会規範を身につけさせる指導に対して理解を示している。 ・上記指導に関して保護者による肯定的な評価が昨年度より増加している。 ・教育相談係の個々に対する適切な指導に関して保護者からの肯定的評価が増加している。 ・いじめや体罰への対応に関して、保護者間では否定的な評価の割合が減少しているのに対して生徒間では若干増えている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生命を大切にする心や態度の醸成 ◇基本的な生活習慣の確立と自己指導能力の育成 ◇個に応じた適時・適切な指導 ◇公民権を適切に行使する態度の育成	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・管理職の指導の下、生徒指導部（教相室・保健室を含む）と学年会・家庭で十分な情報交換を行うとともに、支援が必要な生徒については、関係者間の連携を密にして組織的に対応する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒への呼びかけと情報提供を適時的に行う。 (2) 管理職、分掌内、学年団、家庭との連携を密にする。	(1) 昨年度の統計と比較 (2) 学年会からの生徒の生活状況の報告 (3) 学校生活の様々な場における直接の生徒観察	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・集会時やHRへの文書を通じて、登下校時の交通安全に関する注意喚起を継続的に行うことで、交通事故防止に努めた。 ・学年団との連携のもと、身だしなみ指導や遅刻指導を組織的に行った。 ・教育相談担当を中心として、学年団と情報交換を密に行い、必要時にはスクールカウンセラーや専門機関と連携して対応をした。 ・有権者になる生徒に選挙運動に対する意識を高める講話を行った。	①交通事故件数が減少したか・登下校時の交通マナーが向上したか ②基本的な生活習慣の確立につながったか ③適時、適切な生徒支援ができたか ④選挙違反で検挙される生徒がいなかったか	A (B) C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○人権教育において、命の尊さをテーマにした講話や統一LHRなどを設定することによって、自他の生命を大切にする態度の育成に繋げることができた。 ○学校周辺通学路においてあいさつ運動を兼ねた登校指導を行い、安全な登下校環境を確保することで事故発件数の増加に歯止めを掛けることができた。 ○教育相談分野においては、問題を抱える生徒の指導を考えるケース会議の充実に努め、必要に応じてスクールカウンセラーや専門機関との連携を通して学年団と共にきめ細かな対応を行うことができた。 ○職員研修会を通じて、生徒指導の基本を見直し、対人コミュニケーションの理論と実践について学ぶことができた。 ▲校内での生徒の個人所有物（金銭を含む）の盗難防止の徹底が課題である。	
12 来年度に向けての改善方策案	①「自他の生命の尊重」について、交通安全、命の尊さ、人権に対する意識がさらに高まる行事・活動を工夫する。 ②「基本的な生活習慣の確立」について、国家・社会のリーダーとしてふさわしい態度の育成に向けて、学校・個人のさらなる品格の向上を目指す。 ③生徒指導面、教育相談面における「予防安全」の意識をさらに高めるために、職員間、対生徒、対家庭の情報交換をより密にしていく。 ④「自立した公民」としての資質を高める指導を工夫する。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成29年2月8日

【意見・要望・評価等】

- ・日頃から細かい点まで生徒をよく見て指導に当たっている。
- ・万が一にも、いじめの認知が遅れ生徒が岐阜高校に来なければよかったと思うような事態が出ないように、これからもよろしく願いしたい。

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校

学校番号

1

I 自己評価

1 学校教育目標	(1)「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を養成する。 (2)「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3)勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。
----------	---

2 評価する領域・分野	◇特別活動部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・岐高祭等各種校内行事で、生徒自身が積極的主体的に参加していた。 ・岐高祭や芸術鑑賞に多くの保護者が参加し、本校の特別活動に対する関心の高さがうかがえた。 ・部活動に自主的に参加する生徒の率は高く、活動も活発である。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒会活動や部活動、HR活動を通して自己充実感や成就感を育てると共に、集団生活の中での好ましい人間関係を構築して豊かな社会性の育成を図る。 ◇校外研修の機会を通してお互いに対する思いやりと全体への奉仕の心を学び、自主的・実践的活動力を育み、集団への帰属意識の高揚を図る。 ◇芸術鑑賞会を通して、幅広い教養、豊かな情操や感性を育成する。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長を中心とする職員による各種行事に関わる協議、検討。 ・生徒会執行部を核とした、各種委員会及び一般生徒による実践体制。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 各種校内行事実施のための組織作りと支援 (2) 質の高い校外行事実施のための関係機関との協議と連携	(1) 各種行事や活動への生徒の取り組みや成果に対するアンケートなどにおける評価 (2) 懇談会での意見や、生徒および保護者を対象とする各種アンケートの結果分析	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・校内行事として、生徒会を中心に岐高祭や球技大会、地域清掃等を実施し、活発に活動した。 ・校外行事として、林間学舎活動、修学旅行、遠足等を、各学年と協力して安全に実施した。 ・芸術鑑賞会を実施した。 ・部活動は、入部率が高く、各種大会で活躍する生徒を輩出するなど活発に活動した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 参加生徒は活発に活動できているか。 ② 職員他の協力体制、組織は確立できているか。 ③ 生徒の自主性を育成できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> Ⓐ B C D A Ⓑ C D A Ⓑ C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会を中心に計画、実施した岐高祭は、生徒の主体的活動が見られ、全校生徒が達成感、連帯感を持つことができた。保護者等の来校者も多かった。 ○林間学舎活動、修学旅行、遠足等は各学年の協力の下、充実した内容で行うことができた。 ○部活動は、限られた活動時間の中で充実した活動を行った。生徒の入部率は高く、4月の部登録人数は1年生96%、2年生91%、3年生80%で、自主的積極的に活動し、各種大会で上位入賞する生徒を輩出した。 ○太陽の日等のボランティア活動は、各委員会委員と生徒会役員の他、各部活動などの協力もあり、多くの参加者により行うことができた。 ▲岐高祭で一部職員に負担が偏ることについては、まだ仕事の割り振りに検討の必要がある。 ▲各種ボランティア活動への呼びかけは、まだ努力する必要がある。 	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・岐高祭等の校内行事について、行事内容の精選を行いたい。伝統ある行事が多いが、全校活動を見直すことで、生徒と職員の負担を減らし、より円滑な運営を図りたい。 ・ボランティア活動について、特に地域の清掃活動である「太陽の日」について、全校生徒にさらなる呼びかけを行い、自主的に参加する意識と雰囲気を作っていきたい。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成29年2月8日

【意見・要望・評価等】
・今後は行事の精選を検討していくということだが、せつかく作り上げてきたものは簡単になくさないようにバランスを考えて見直しをしてほしい。